

平成29年度 書道Ⅱ

教科(科目)	芸術(書道Ⅱ)	学科(コース)・学年	全学科・3学年
使用教科書	書Ⅱ (光村図書)		
副教材等			
履修単位(時間)	2単位(70時間)	履修条件	選択B (書道Ⅰを履修した者)

1. 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道Ⅰで学んだ技法をもとに、さらに新しい書体を学び、表現技法の幅を広げる。また、鑑賞能力を伸ばすとともに、書道理論や東洋文化に対する理解を深め、書への関心を高める。</li> <li>・作品制作を中心とし、自己表現の場として、作品を校内外へ発表する。</li> </ul>
--

2. 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道Ⅰの学習の基礎の上に             <ul style="list-style-type: none"> <li>○作品制作を行う際に目的意識を持たせ、習得した用筆法や技法を作品制作へ反映する。</li> <li>○文化祭、卒業制作展に向けて、制作した作品の表装、展示までを自分たちの手で行う。</li> <li>○書の文化と伝統を尊重し、書を愛好する心情を育む。</li> </ul> </li> </ul>
--

3. 学習の計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動(評価方法)
1学期	篆書の学習 古典作品の臨書 ・大孟鼎 ・石鼓文 文字の造形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の成立から変遷を理解する。</li> <li>・基本的な筆法、運筆法による点画や線質の表し方を理解する。</li> <li>・古典作品の時代背景を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品</li> <li>・鑑賞(自己評価表)</li> <li>・授業の取り組み (制作態度・意欲)</li> </ul>
	隸書・木簡の学習 技法の復習 古典作品の臨書 ・乙瑛碑 ・居延漢簡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道Ⅰで学んだ技法を復習する。</li> <li>・基本的な筆法、運筆法による点画や線質の表し方を理解する。</li> <li>・古典作品の時代背景を理解する。</li> <li>・表現意図やねらいに応じた作品効果演出ができる</li> <li>・紙面構成を考え、作品をまとめる。</li> <li>・落款の入れ方について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品</li> <li>・鑑賞(自己評価表)</li> <li>・授業の取り組み (制作態度・意欲)</li> </ul>
	草書・行書・楷書の学習 古典作品の臨書 ・真草千字文 ・松風閣詩巻 ・美人董氏墓誌銘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草書の成り立ちを理解する。</li> <li>・運筆法による点画や線質の表し方を理解する。</li> <li>・書道Ⅰで学んだ技法を復習する。</li> <li>・様々な運筆法、表現方法を学び、作品の作り方、まとめ方を理解し、作品制作へ活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品</li> <li>・授業の取り組み (制作態度・意欲)</li> </ul>
	〈競書大会作品制作〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書体や書風に即した用筆、運筆により点画や線質が表現できる。</li> <li>・実用書の学習として、ボールペンを練習をし、文字の構築性</li> </ul>	
	ペン字練習		

2 学期	刻字 ・ 刻字の技法	とバランスを習得する。 ・ 平面ではなく、立体作品の効果を理解する。 ・ 構想から目標を持って表現を工夫する。 ・ 着色効果を理解する。 ・ 箔貼りの経験と技術の習得。	・ 作品 ・ 授業の取り組み (制作態度・意欲)
	草書の学習 古典作品の臨書 ・ 書譜 ・ 草書千字文	・ 基本的な筆法、運筆法による点画や線質の表し方を理解する。 ・ 古典作品の時代背景を理解する。	・ 作品 ・ 鑑賞 (自己評価表) ・ 授業の取り組み (制作態度・意欲)
3 学期	卒業制作展 作品制作 ・ 臨書作品制作 ・ 共同作品制作 ・ 展示	・ 表現意図やねらいに応じた作品効果演出ができる ・ 紙面構成を考え、作品をまとめる。 ・ 落款の入れ方について理解する。 ・ 展示作業を自分たちで行い、展示の効果を考える。	・ 作品 ・ 鑑賞 ・ 授業の取り組み (制作態度・意欲)

4. 評価の観点

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習に対して興味を持ち、積極的に取り組んでいる。</li> <li>・ 学習活動への主体的に参加している。</li> <li>・ 書の文化や伝統を理解し、その美しさを味わっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品全体のまとめ方を理解し、紙面全体を意識し、バランスよく表現している。</li> <li>・ 自分の意図に基づく表現方法を探求し、工夫して表現している。</li> <li>・ 多様な書の美の理解をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの古典の特徴を捉え、習得した技術を自己の表現活動に生かしている。</li> <li>・ 表現技法の活用の方を理解している。</li> <li>・ 用具、用材の特性を生かした表現の技能を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書の効用を理解し文字及び書の伝統と文化について幅広く理解している。</li> <li>・ 作品の良さや美しさを創造的に感じている。</li> <li>・ 多様な書の美の理解をしている。</li> </ul>
<p>具体的な評価の対象</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学習成果 (作品)</li> <li>②学習活動への参加状況や態度</li> <li>③学習のまとめの内容 (プリント・自己評価表など)</li> </ul>			

5. その他 (留意すべき点・担当者からの一言)

「書道 I」で学んだ基礎、基本を深め、書についての総合的な理解や技能を高めます。作品制作を主体とした授業となります。書くだけでなく、書をもとにした発展作品も制作していきます。